

# 平成24年度 学校評価シート

学校名： 有田中央高等学校 学校長名： 清水博行

目指す学校像 ・ 育てたい生徒像	・家庭・地域と連携・協同して、「地域社会の中核を担う若者」を育てる ・規律ある生活態度と自己責任能力を確立するとともに、自然との共生や社会に貢献できる資質を身につけ、豊かな感性を持ってたくましく生きる生徒
------------------------	---

本年度の重点目標  (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 着実な成果をもたらす学習指導の徹底
	2 社会の中核を担う若者育成に直結するキャリア教育の充実
	3 自らの将来や社会全体を意識した行動規範の確立
	4 自他の可能性を尊重し合い、希望にあふれた学び舎の創造
	5 学校・家庭・地域における意識改革の進展

達成度	A	十分に達成した (80%以上)
	B	概ね達成した (60%以上)
	C	あまり十分でない (40%以上)
	D	不十分である (40%未満)

学校評価の結果と改善方策の公表の方法
保護者や地域協育会会員に自己評価及び学校関係者評価の結果を広く知らせるとともに、教職員には新年度の目標設定に向けて分析結果を含め周知している。

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。  
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					年 度 評 価 ( 2 月 8 日 現 在 )		
重 点 目 標					年 度 評 価 ( 2 月 8 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
1	授業改善への意識改革や取組みが進んでいるが、学習成果の着実な向上に向けて、教員の更なるスキルアップと補習等の個別指導の充実が必要である。カリキュラムを含めたシステムの改革は2年目で進行中であるが、実効性あるものとなるような不断のカリキュラムチェックが必要である。	生徒の学習面での具体的な成長、改善に結びつくような取組みとなっているか。	授業研究を組織的に取組み、教員一人ひとりの授業力・指導力の着実な向上を期する。  基礎学力定着への支援及び、学習意欲喚起を目標とする補習の充実を組織的に取組む。  生徒の自己実現に有効なカリキュラムとなるよう点検・評価・修正を随時行う。	学期毎の研究・公開授業週間の設定、授業研究会の開催を実施する。  朝学の取組み徹底と習熟度に応じた教材の工夫、毎考査前・長期休暇の補習の実施と参加を徹底する。  各種資格試験受験率や学校・授業評価の生徒の授業満足度を高める。	○各学期に1回研究・公開授業を実施。また、「授業研究会」を中心に5観点を通認識として授業改善に取り組んだ結果、一定の成果は得られた。○朝学の取組は定着してきたが、習熟度に対応した教材の工夫はできなかった。補習は各考査前と長期休暇に実施。但し全員参加とまではいかない。○カリキュラムについては微調整にとどまった。	B	○授業力向上の取組を継続し、さらに実効性のあるものとするため研究工夫する。○朝学については教材の開発に努力する。補習は、参加の徹底とともに単なる考査対策にならぬよう時期・方法ともに検討。○カリキュラムは、新系列の完成年度にあたるなど、節目の時であり、生徒にとってより有効なものとなるよう検討していく。
2	生徒一人ひとりに、自らの将来に夢や希望があることを強く意識させ、自己実現に向けて、今を大切に学校生活に前向きに取り組ませる意欲や態度を育てることが重要である。高校3年間で、生徒一人ひとりを社会で期待され、必要とされる人材へ鍛え上げると意識で指導・支援を行うことが必要である。	3年間で有為な人材へ育て、社会を送り出すという観点で取組んでいるか。	「産社」・「総学」・「系列での学習」等を関連付け、在り方・生き方の深化に繋がるキャリア教育を充実させる。  地域協育会での活動や職場体験等を充実させて、生徒一人ひとりに将来展望を明確化させ、社会で活躍する意欲を強く抱かせる。  適性・能力をきめ細かく掌握し、各々の進路実現に向けた指導・支援を徹底する。	キャリア教育に関する現職教育、研究授業等を3回以上実施する。  デュアルシステム及びインターシップを実施する。  生徒全員の進路加付を作成し、一人ひとりに寄り添った指導を行う。	○現職教育を3回実施し、職員の共通認識の下、指導が行えるようにした。○インターシップの見直しや地域の社会人の方々の生き方を学ぶ「生き方在り方ゼミ」や長期企業研修を行うデュアルシステムの導入を行った。○4月当初に実施した三者面談の内容や進路担当者や担任が行った指導の経過などをまとめた進路カルテを作成し、学年団と進路担当者が情報を共有し、指導に活かした。	B	○キャリア教育の目的の周知徹底までは、明確なものを提示することができず、十分に目標達成することができなかった。より明確なものを提示できるよう検討を行う。○インターシップなどの取組については効果的な指導に繋がるよう分掌と学年団との連携の在り方を工夫する必要がある。○進路カルテについては一定の成果があったが、さらに実効性あるものにする研究や工夫が必要。
3	状況はかなり改善されているが、生徒指導面での落ち着いた環境を維持することが大きな課題である。一部には、刹那的で目先の痛みや快楽を判断基準とする生徒も少なくなく、将来や社会全体のために何が大事で、今をどう生きるべきかを考えさせ、行動させることが重要である。	教員一人ひとりが特性を活かしながら生徒と真摯に向き合い、展望を持った指導を行っているか。	ルールやマナーが遵守された環境を確立し、それが当たり前で居心地が良いと感じる個人・集団を育てる。  生徒が自らの課題と向き合い再発防止への努力獲得に繋がる特別指導へ質的転換を図る。	校内が挨拶であふれているか。身だしなみ、交通指導件数の30%減を図る。  問題行動を繰り返す生徒数の30%減を図る。	○生徒会による挨拶運動が契機となり、校内に挨拶がみられるようになり、個人・集団が育ちつつある。○教員が生徒に真摯に向き合うようになり、内容により、指標を達成できた。しかし、特別指導件数の大幅増など課題もある。	B	○件数の増加は、以前は指導に至らなかったものに対して指導ができるようになったこともあるが、規範意識を高め、あるべき校内環境を育てることが引き続き課題。○今後も、指導と支援の連携を深めることが重要である。
4	生徒の活動や発達への支援について、教員の認識が深まり、積極的に関わるようになってきた。生徒の自主的活動への意欲が高まり、集団を意識するようになってきている。生徒が人間関係力を向上させ、社会の一員として活動する意欲を育むことが必要である。	教員が生徒への関わりを強め、生徒の可能性を上げようという観点で取組んでいるか。	様々な機会や、自らを大切に思う心情と多様な価値観を尊重できる態度を育てる。  学校の中核を担う意欲と実践力を備えた生徒を育てるとともに、部活動等で着実な成果を積み重ねて、活動への自信と意欲をさらに向上させる。  特別支援教育の観点から生徒理解の深化と情報共有を進め、適切な指導・支援方法の開発・実践を進める。	自己肯定感をもち自尊感情が育つ取組みを行い、満足度を高める。  各行事に積極的に参加する態度を育成する。またリーダーの育成に関する取り組みを年6回以上実施する。  生徒が「わかる」ための支援・取組みができるように現職教育を年5回以上実施して理解を深める。	○学校行事において、積極的に行動できる雰囲気が学校全体に広がってきた。様々なことに一生懸命取り組む姿勢が見られ、自他共に肯定できる環境が生まれつつある。○生徒会役員・クラブ部長キャプテン会議を10回以上行った。各行事はもちろん、普段の生活においても前向きに取り組むことで他の生徒を巻き込み、学校を良くする行動がとれるようになってきた。○現職教育を5回以上実施し、理解を深められた。	B	○参加生徒数の増加は見られた。今後は参画生徒数の増加に繋がる支援・指導が必要である。○新・生徒会役員・クラブ部長キャプテン会議も数回行い、行事等を中心に取組を見せている。24年度を超える活躍を期待するとともに、支援・指導を行っていく。○さらに理解を深めるために現職教育を積極的に実施していく。
5	学校説明会や、メールによる情報配信等をさらに充実させ、本校に対する理解と期待を高めることが必要であるとともに、教員の取組みのベクトルを揃えて、学校の組織力を向上させることが求められている。	大所高所から状況把握と、問題意識の共有によって、組織的な改善に貢献できているか。	情報発信力や情報収集力を強化し、保護者・地域との連携・信頼を深めるとともに、本校に対する期待感を高めてもらう。  教員一人ひとりが生徒への主体的・積極的な関わりを強めるとともに、互いに支え合うことで、質の高い教育活動を展開する。	月1回以上のメール配信とHPの更新。学校説明会効果的な実施と体験学習参加者の前年比30%増を図る。  教員の意識向上のための現職教育の実施し、教育活動の環境改善を図り学校評価での満足度を高める。	○メール配信は頻繁に行うことができたが、HPについては更新はあまり進んでいない。説明会については年3回実施し、生徒の活動を前面に出したことにより大変好評を博した。○教員の授業力向上の一助として、教室環境の整備や教育機器の充実に努めた。	B	○HPは発信内容を研究し、技術力を向上させ更新を進めていく。説明会はより充実したものとなるよう内容を検討。地域協育会は委員会活動をさらに活性化させる。○教育機器の効果的な配備に努める。分掌、学年等の取組が機能するよう統括的にバックアップする。

学校関係者評価
平成24年2月14日実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
○本校ミッション「地域の中核を担う若者を育てる」や、ビジョンについて： 内容については理解や評価を得たが、保護者を始めとする関係者により周知していく必要が指摘された。  ○「学習指導」について： 保護者からは高い評価(アンケートでは内容等について約7割の肯定的評価)を得ている。系列をはじめとする教育システム改革や授業改善の取組が成果を出しつつあると、考えられる。  ○「進路指導」について： 進路キャリア指導の取組については一定の評価を得た。しかしながら、アンケートでは保護者への周知が十分ではなく、今後より協力や理解が求められる状況を見ると、説明や発信の機会や場を増やしていくことが求められる。  ○「生徒指導、防災教育」について： 生活習慣の確立や規範意識の育成を図る生徒指導については理解をいただき、評価を得ている。一方で、防災や健康に対する対策についてはより一層の取組を求める指摘もあった。  ○「特別活動」について： 肯定的評価を得られた。2年前からの部活動活性化や「リーダー育成」への取組の効果が出ているからと考える。  ○「学校と家庭、地域の連携について」： 本校の「地域協育会」の取組や、メール配信の充実等が功を奏し、評価を得ているが、より連携を密にしていこう求める指摘もあった。

